

○「令和2年度第1回鹿行地域次世代施設園芸現地研修会」を開催しました

近年、施設野菜栽培では、収量性、収益性を高めるために先端技術を活用した複合環境制御技術の導入が進められており、鹿行地域でも、ICT機器を導入し、環境の「見える化」と、それに基づく環境改善の取り組みを行っています。

こうしたなか、11月6日（金）に「令和2年度第1回鹿行地域次世代施設園芸現地研修会」を、ICT機器の活用によりミニトマトを栽培している株式会社フジエダファームにて開催しました。

鹿行地域のさらなる次世代施設園芸の普及を図るため、県関係機関、鹿行地域の生産者を対象とし、農研機構の安東赫（アン・ドンヒョク）氏を講師にお招きして、統合環境制御装置（プロファイnderNext80）によるミニトマトの生育診断と栽培管理のポイントについてアドバイスをいただきました。

今後とも、鹿行農林事務所は、ICT機器を用いた次世代施設園芸の普及を支援、推進してまいります。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数制限を設けた研修会といたしました。また、マスクの着用、手指の消毒、ソーシャルディスタンスの保持を行いました。

